

ユーザーブロックの設定

Note

このページでは、デメリット、コンソーシアムブロック、延滞貸出などのユーザーブロックの設定方法について説明します。ブロック設定については、[貸与](#)を参照してください。

フルフィルメントに関するすべての主な文書ページへのリンクは、[フルフィルメント](#)をご覧ください。

ユーザーブロックの説明と定義の設定

Note

図書館員およびシステムによって割り当てられたブロックを利用者に設定するプロセスをガイドする方法については、「[ユーザーの貸出、更新、および保留リクエストを防ぐためにブロックを設定する方法](#)」を参照してください。

ユーザーへのユーザーブロックの割り当ての詳細については、[ユーザーのブロックとブロック解除](#)を参照してください。これらのテーブルは、延滞貸与によるユーザーブロックの設定時にも使用されます（[延滞貸与によるユーザーブロックの設定](#)）。

ユーザーブロック定義を設定するには、最初にユーザーブロックの説明を設定する必要があります（定義を設定するときに説明を選択する必要があります）。ユーザーをブロックすると、ユーザーのブロックの説明もドロップダウンリストに表示されます（[ユーザーのブロックとブロック解除](#)を参照）。

ユーザーブロックの説明にアクセスするには、**[設定メニュー]> [フルフィルメント]> [ユーザー設定]> [ユーザーブロックの説明]**のページにアクセスします

Enabled	Move Up	Move Down	Code	Description	Translation	Default Value	Updated By	Last Updated
<input checked="" type="checkbox"/>			SUSPENDED	User is suspended	User is suspended	<input checked="" type="radio"/>	ex_limpl	2015/01/07
<input checked="" type="checkbox"/>			CONSORTIA	Consortial block	Consortial block	<input type="radio"/>	system	2017/07/30
<input checked="" type="checkbox"/>			01	Patron consistenth	Patron consistently returns books late	<input type="radio"/>	ex_limpl	2015/01/07
<input checked="" type="checkbox"/>			02	Disruptive behavior	Disruptive behaviour in library	<input type="radio"/>	ex_limpl	2015/01/07
<input checked="" type="checkbox"/>			03	Personal item left i	Personal item left in library - contact Circ desk	<input type="radio"/>	ex_limpl	2015/01/07
<input checked="" type="checkbox"/>			04	Too many Claimed	Too many Claimed Returned Items	<input type="radio"/>	ex_limpl	2015/01/07

ユーザーブロック説明

このページでは、次のアクションを実行できます。

- ユーザーブロックの説明のリストをファイルからインポートする
- 新しいユーザーブロックの説明を追加する
- ユーザーブロックの説明を削除する
- ユーザーブロックの説明を有効/無効にする
- ユーザーブロックの説明のリストを並べ替える
- コードまたは説明フィールドを変更する
- リストのデフォルト値にする説明を1つ選択する

ユーザーブロック定義は、[ユーザーブロック定義マッピングテーブル]ページ（[\[設定メニュー\]](#)>[\[フルフィルメント\]](#)>[\[ユーザー設定\]](#)>[\[ユーザーブロック定義\]](#)）で設定します。

id	Type	Description	Overridable	BlockedAction	Network Block	Updated By	Last Updated
1	GUEST	User is suspended	OPERATOR	01	False	est_impi	2013/08/23

マッピングテーブルページ - ユーザーブロック定義

Note

ユーザー固有のブロックは、機関レベルでのみ設定できます。フルフィルメント設定ページの設定フィルタから必要な機関を選択します。

このページでは、次のアクションを実行できます。

- ユーザーブロック定義のセットを追加します（[ユーザーブロック定義の追加](#)を参照）
- 一連のユーザーブロック定義を編集します（[ユーザーブロック定義マッピングテーブル]ページで設定を変更します）。ユーザーグループ定義に定義されているIDは変更できません）。
- 一連のユーザーブロック定義を削除します（削除を選択）

ユーザーブロック定義の追加

定義したユーザーブロック定義は、機関内のすべての図書館に適用されます。

新しいユーザーブロック定義を追加する場合：

1. [ユーザーブロック定義のマッピングテーブル]ページで、行の追加を選択し、IDフィールドに新しいユーザーブロック定義のIDを入力します。

+ Add Row

×

Id

Type

Cash
▼

Description

Consortial block
▼

Overridable

ALL
▼

BlockedAction

01
▼

Network Block

False
▼

Add Row

[マッピングテーブル]ページの新しいマッピング行セクションの作成

2. 以下の情報を各ドロップダウンリストから選択してください：

- **説明** - ブロックアクションを説明します。ブロックの理由。このリストには、すべてのユーザーブロックの**説明**が含まれます。上記の**説明**の定義については、ユーザーブロックの**説明**のコードテーブルを参照してください。
- ブロックされたアクション-次のいずれかからブロックされたアクションを選択します。

Note

これらのブロックされたアクションは、Almaで事前に設定されています。保留リクエストおよび/またはリソースシェアリクエストのブロックなど、追加のブロックアクションを設定するには、Ex Librisサポートにお問い合わせください。

- 01 – 貸与
- 02 – 貸与、更新
- 03 – 貸与、更新、置き
- **タイプ**-次のいずれかからブロックのタイプを選択します。

Note

タイプ値は情報専用であり、値を**変更**すべきでないデメリットおよびコンソーシャルブロックタイプを除き、システムに影響を与えません。デメリットの設定については、[デメリットの設定](#)を参照してください。コンソーシャルブロックの設定については、[コンソーシャルブロックの設定](#)を参照してください。

- 現金
 - コンソーシャルブロック
 - デメリット
 - 一般
 - 貸与
 - リソースシェアリクエスト
 - ユーザー
- 上書き可能 - ブロックが次のいずれかから上書き可能かを選択します。
 - すべて - ブロックは、貸出・返却受付オペレータによって上書き可能です。
 - なし - ブロックは上書きできません
 - 貸出・返却受付 - ブロックは、貸出・返却受付マネージャによってのみ上書き可能です。
 - オペレータ - ブロックは、貸出・返却受付マネージャまたは貸出・返却受付オペレータによって上書き可能です（貸出・返却受付オペレータのユーザーは上書き不可とする制限された権限）。
 - ネットワークブロック - リンクされたアカウントを作成または更新するときにブロックをコピーするかを選択します。
 - 真 - ブロックをコピーします
 - 偽 - ブロックをコピーしません。これがデフォルトです。
 - 行を追加を選択します。新しいユーザーブロック定義は、定義されたユーザーブロック定義のリストの下部に表示されます。
 - 保存を選択して、ユーザーブロック定義の新しいセットを保存します。
-

デメリットの設定

デメリットを設定するのは、次のいずれかの役職でなければなりません。

- 一般システム管理者
- フルフィルメント管理者

Almaを使用すると、設定された時間内に発生したデメリットの数に基づいて、ユーザーブロック（貸与など）を適用するデメリットシステムを設定できます。ブロックが適用されると、機関は設定された日数の間ユーザーを一時停止し、ユーザーレコードから使用されたデメリットポイントを差し引きます。一時停止中にユーザーにデメリットポイントが追加された場合、これらのポイントとユーザーの残りのポイントにより、一時停止期間終了後に、別の一時停止につながる可能性があります。

Note

一時停止を受けるには、設定された日数内にデメリットポイントが発生する必要があります。

ユーザー-ブロックの解除ジョブは毎日実行され、ユーザーレコードのブロックを解除します。

Note

さらに、デメリットポイントの設定の詳細については、[デメリットポイントの設定](#)を参照してください。

デメリットシステムの有効化

以下のパラメータを設定します ([その他の設定](#)を参照)。

- **demerit_enable** – デメリット機能を有効にするには、このフィールドを真に設定します。
- **demerit_history_days** – デメリット追跡期間の長さを日数で指定します。ユーザーのデメリットポイントがデメリット追跡期間（つまり、このパラメータで指定された最後の日数）の間に**demerit_maximum_threshold**パラメータで指定された値を超える場合、システムはユーザーをブロックします。
- **demerit_maximum_threshold** – 追跡期間中に許容される最大ポイント数を指定します。
- **demerit_suspension_days** – ユーザーの停止期間の長さを日数で指定します。

デメリットポイントは常にアクティブなステータスです。ただし、ポイントが作成されてから**demerits_history_days**で定義された時間が経過すると、ポイントのステータスがアクティブであっても、デメリットの合計を計算するときにポイントは無視されます。

デメリットポイントの設定

デメリットポイントマッピングテーブルは、ユーザーのタイプと返却される資料タイプに与えられるデメリットポイントを定義します。また、リコールされた延滞の資料にさまざまなポイントを適用することもできます。

デメリットポイントを設定する場合：

1. [デメリットポイントマッピングテーブル]ページ ([\[設定メニュー\]> \[フルフィルメント\]> \[ユーザー設定\]> \[ユーザーデメリット\]](#)) で、[行の追加]に次のフィールドを入力して、ユーザーグループと資料タイプに割り当てるポイントを定義します。

DemeritPoints マッピングテーブル

- 。 ユーザーグループ – 特定のユーザーグループまたはすべてを選択します。
- 。 資料タイプ – 特定の資料タイプまたはすべてを選択します。
- 。 レギュラー延滞ポイント – 延滞アイテム（リコールされた延滞アイテムではない）に適用するデメリットポイントの数を入力します。
- 。 リコール延滞ポイント – リコールされた延滞アイテムに適用するデメリットポイントの数を入力します。

2. 行を追加を選択します。

Almaは、次の優先順位を使用して、デメリットポイントをユーザーに割り当てるときに使用するマッピング行を決定します。

1. ユーザーのグループと返却される資料の両方がテーブルの値と一致します。
2. ユーザーのグループはテーブルの値と一致し、資料タイプはテーブルですべてに設定されます。
3. 返却されたアイテムはテーブル内の資料タイプの値と一致し、テーブル内のユーザーグループはすべてに設定されます。
4. テーブルでは、ユーザーグループと資料タイプの両方がすべてに設定されています。
5. 一致が見つからない場合、デメリットは割り当てられません。

たとえば、次のデメリット行が定義されており、卒業生がリコールされていない原稿を延滞して返却する場合、システムはデメリットポイント1点を卒業生に割り当てます。

デメリットポイントマッピング行の例

ユーザーグループ	資料タイプ	レギュラー延滞ポイント	リコール延滞ポイント
大学生	図書	3	5
すべて	原稿	3	6
卒業生	すべて	1	2

3. すべてのデメリットポイント定義を追加したら、カスタマイズを選択してテーブルへの変更を保存します。

ユーザーがデメリットの閾値に達すると、システムはユーザーレコードにデメリットブロックを適用します。

デメリットブロックの設定

ユーザーブロック定義マッピングテーブルは、デメリット履歴閾値で定義された連続日数の間にデメリットポイント閾値に達したユーザーに与えられるデメリットブロックを定義します。

詳細については、[ユーザーブロックの説明と定義の設定](#)を参照してください。

ブロックジョブのモニタ

ユーザーブロックの解除ジョブは毎日実行され、一時停止中のユーザーが一時停止期間を満了し、一時停止中に設定されたデメリット閾値を超えていないかを判断します。超えていなければ、ユーザーのブロックは解除されます。

詳細については、[ジョブレポートの表示](#)を参照してください。

コンソーシャルブロックの設定

ブロックを設定するのは、次のいずれかの役職でなければなりません。

- 一般システム管理者
- フルフィルメント アドミン

コンソーシウムブロックとは、フルフィルメントネットワーク内で、リンク済みアカウントが作成または更新された際に、ソース機関または他のターゲット機関からターゲット機関へコピーされるユーザーブロックのことです。これらはコンソーシウム内で共有されるように設定された特定のタイプのブロックであり、受信機関の利用者レコードには「コンソーシウムブロック」として表示されます。これにより、コンソーシウムは機関レベルまたはネットワークレベルで定められたルールに基づき、加盟ライブラリ全体に一貫した利用者制限を適用できるようになります。

この文脈では、ソース機関は利用者の所属機関であり、ターゲット機関は利用者がゲスト利用者としてサービスを受ける機関を指します。

ユーザーがネットワークゾーンで管理されるネットワークでは、貸出機関はユーザーの所属機関であり、ネットワークゾーンはターゲット機関です。ブロックはユーザーの所属図書館からネットワークゾーンへコピーされ、ネットワークゾーンのブロックは他の機関へコピーされます。

Note

フルフィルメントネットワークでは、利用者が所属機関以外の機関でフルフィルメントサービスを利用する際、利用者情報はソース機関からターゲット機関へコピーされます。

ソースからターゲットへのブロックのコピー

ソース機関からターゲット機関にのみコピーされるコンソーシアムブロックは、ターゲット機関の着信ブロックを指します。ブロックは、リンクされたアカウントが最初に作成されたとき、またはターゲットレコードが更新されたときにコピーされます。コピーされたブロックは、ソースの元のブロックタイプではなく、コンソーシャルブロックとして表示されますが、ブロックノートはソース機関に表示された元のブロックタイプを示します。

ソース側でコンソーシャルブロックをアクティブにする場合：

- ネットワークブロックフィールドを真に設定して、ユーザーブロック定義テーブルでターゲットに送信されるブロックを設定します。[ユーザーブロックの説明と定義の設定](#)を参照してください。

ターゲット側でコンソーシャルブロックをアクティブにする場合：

- ネットワークブロックのコピーフィールドをはいに設定して、リンクアカウントルールを設定します。[リンクされたアカウントルールの設定](#)を参照してください。
- [ユーザーブロックの説明]テーブルで、コードCONSORTIAでレコードが存在しない場合は作成します。コードフィールドにCONSORTIAと入力し、説明フィールドにコンソーシャルブロックを入力します。
- [ユーザーブロックの定義]テーブルで、タイプおよび説明フィールドがコンソーシャルブロックに設定されたレコードを作成します。このブロックがソースにコピーされないようにするには、ネットワークブロックフィールドを偽に設定します。[ユーザーブロックの説明と定義の設定](#)を参照してください。

ターゲットからソースへのブロックのコピー

ブロックは、対象機関側でブロックを作成、更新、または削除する際に、対象機関からソース機関へコピーされます。コピーされたブロックは、対象機関での元のブロックタイプではなく、コンソーシアムブロックとしてソース機関に表示されます。ただし、ブロックノートには対象機関での元のブロックタイプが表示されます。

Note

送信元機関にコピーされたブロックは、上記「[送信元から送信先へのブロックコピー](#)」の設定に基づき、他の送信先機関へさらに伝播される可能性があります。

コンソーシアムブロックをターゲットからソースにコピーするには：

ソース側：

- ユーザーブロックの説明に新しい行を追加します（[\[設定\]>\[フルフィルメント\]>\[ユーザーブロックの説明\]](#)）
- コードを **FROM_TARGET** に設定します。

3. 説明を追加します（必須ではありません）。たとえば、「リンクされたアカウントユーザーを対象機関からブロックする」といったものです。
4. ユーザーブロック定義ページに新しい行を追加します（[\[設定\]](#) > [\[フルフィルメント\]](#) > [\[ユーザーブロック定義\]](#)）。
5. IDを**FROM_TARGET**に設定します。
6. タイプをコンソーシアムブロックに設定します。
7. ドロップダウンリストから説明を追加します（必須ではありません）。
8. ネットワークブロックを **True** に設定すると、ブロックがネットワーク内の他のすべてのターゲットに配布されます。この配布は自動的には行われません。これは、利用者が別の対象機関に入るときにのみ実行されます。その場合、ブロックはこの機関にのみコピーされます。

このフィールドを **False** のままにすると、ソースはターゲットからブロックを受信するだけで、他のターゲットに配布しません。

ターゲット側：

1. 機関がソース機関にコピーを希望するブロックについては、ネットワークブロックをユーザーブロック定義ページ（[\[設定\]](#) > [\[フルフィルメント\]](#) > [\[ユーザーブロック定義\]](#)）で **True** に設定します。

延滞の貸与によるユーザーブロックの設定

Note

図書館員およびシステムによって割り当てられたブロックを利用者に設定するプロセスをガイドする方法については、[「ユーザーの貸出、更新、および保留リクエストを防ぐためにブロックを設定する方法」](#)を参照してください。

ブロックポリシーを実装できます。これにより、貸出期限を過ぎて返却された貸出があった場合に、定義された延滞によるブロックポリシーに従い、ユーザーが延滞した貸出を返却した後にユーザーレコードにブロックが発生するように、ブロックポリシーを実装できます。ブロックポリシーは、利用規約ごとに個別に設定できます。デフォルトでは、ポリシーは保留、リソースシェアリクエスト、貸与、更新をブロックします。以下の設定手順で説明したように、延滞ブロックを作成するには、[\[ユーザーブロック定義\]](#)マッピングテーブルと[\[ユーザーブロック説明\]](#)コードテーブル（[ユーザーブロックの説明と定義の設定](#)を参照）を設定する必要があります。また、**maximum_overdue_block_per_block**パラメータを設定して、ポリシーを各ブロックに個別に適用するか、合計ですべてのブロックに適用するかを定義する必要があります。[その他の設定（フルフィルメント）](#)を参照してください。

ブロックは、貸与の延滞時間に応じて一定期間（開館日またはすべての日に基づいて）指定されるか、固定期間に指定されます。ユーザー-ブロックの削除ジョブの一部として、設定された有効期限が過ぎると、ブロックは自動的に解除されます。期限切れのアイテムが更新されるか紛失としてマークされた場合も、ブロックは自動的に解除されます。

Note

ブロックは、短期貸与用にも構成できます。構成するには、**short_loan_overdue_block**パラメータをtrueに設

定めます。詳細については、[短期貸与のリマインダー](#)を参照してください。

延滞ローンのブロックポリシーを構成する

延滞ローンのブロックポリシーを構成するには、次の手順を実行します。

1. [ユーザーブロックの説明]テーブル ([設定メニュー]> [フルフィルメント]> [ユーザー設定]> [ユーザーブロックの説明]) にアクセスします。コード **OVERDUE** で新しい行を追加します ([ユーザーブロックの説明と定義の設定](#)を参照)
2. [ユーザーブロックの定義]テーブル ([設定メニュー]> [フルフィルメント]> [ユーザー設定]> [ユーザーブロック定義]) にアクセスします。前のステップで作成された延滞貸与ブロックを使用して、貸与タイプの新しい行を追加します。
3. フルフィルメント利用規約 ([設定メニュー]> [フルフィルメント]> [冊子フルフィルメント]> [利用規約およびポリシー]) にアクセスします。新しい貸与利用規約を追加するか、既存の貸与利用規約を編集します ([利用規約の設定](#)を参照)。

延滞によるブロックの利用規約はデフォルトではブロックしません。

4. ブロックを作成するには、ドロップダウンから空白ラインを選択し、アクションメニューからポリシーの追加を選択します。

The screenshot shows the 'Policy Details' configuration page for 'Block When Overdue'. The page is titled 'Policy Details' and includes 'Cancel' and 'Save' buttons. The user is configuring for 'Ex Libris University'. The 'Policy Type' is 'Block When Overdue'. The 'Policy Name' is 'Cumulative Overdue Block'. The 'Policy Description' field is empty. The 'Value Type' is set to 'Other'. The 'Value' field is empty. The 'Unit Of Measurement' dropdown is open, showing a search bar with the text 'Look-up or select' and a list of options: 'All Days - Cumulative', 'All Days - Discrete', 'Days per Overdue Days - Cumulative', 'Days per Overdue Days - Discrete', 'Months - Cumulative', 'Months - Discrete', 'Open Days - Cumulative', 'Open Days - Discrete', and 'Open Days per Open Overdue Days - Cumulative'.

ブロックポリシーを追加

5. [ポリシーの詳細]ページで、値のタイプのその他を選択します。値フィールドに数値を入力します。次に、測定単位

ドロップダウンリストから**選択**します。延滞ブロックは、複数の貸与で累積された延滞日数に基づいて（累積）、または単一の貸与の延滞日数に基づいて（個別）計算されます。適用可能な延滞によるブロックポリシーに累積測定単位がある場合、有効期限は、ポリシーで定義されているように、最新のブロック有効期限と日数として計算されます。累積値が**選択**されていない場合、有効期限は既存のブロックを考慮せずに、ポリシーのみに従っています。延滞のブロックは、24時間に基づいて計算されます。測定単位が日数の場合、ブロックは1日（返却日と期日の間の24時間）に適用されます。

Note

- 。累積の場合、新しく作成されたブロックの有効期限を計算する際には、非アクティブなブロックが考慮されます。
- 。返却期限を過ぎた日数-個別または返却期限を過ぎた開館日数-個別が測定単位として**選択**されている場合、計算は次のようになります： $\langle [返却期限を過ぎた日数] / [返却期限を過ぎた開館日数] \rangle * \langle 値 \rangle$ 。

延滞したらブロックで利用可能な値は次のとおりです。

- 。すべての日付 - 累積
- 。すべての日付 - 個別
- 。延滞日あたりの日数 - 累積
- 。延滞日あたりの日数 - 個別
- 。月 - 累積
- 。月 - 個別
- 。開館日数 - 累積
- 。開館日数 - 個別
- 。開館延滞日数あたりの開館日 - 累積
- 。開館延滞日数あたりの開館日 - 個別
- 。週 - 累積
- 。週 - 個別
- 。なし

6. 保存を選択します。

7. [利用規約の詳細]ページで、**延滞ブロックの最大期間**を選択します。最大延滞ブロック期間ポリシーは、延滞貸与ブロックの有効期限の計算に影響します。ブロックの有効期限が最大値よりも**遅い**と計算された場合、ブロックは制限に合わせて短縮されます。デフォルトのポリシーでは、最大延滞ブロック期間は設定されません。

8. 最大ブロックポリシーを作成するには、ドロップダウンから空白ラインを選択し、アクションメニューからポリシーの追加を選択します。

ユーザーブロックの表示

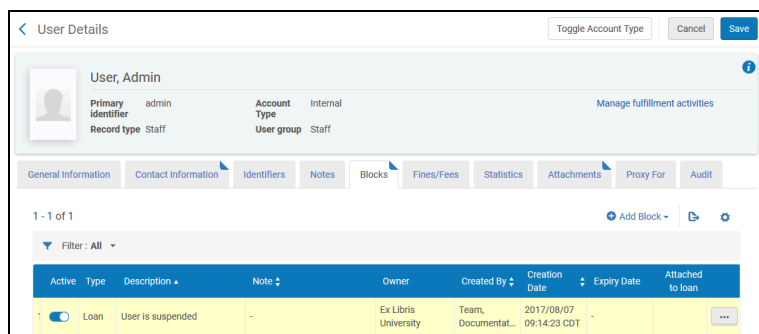
ユーザーレコードには、ユーザーのアクティブなブロックに関する情報が含まれています。

ユーザーブロックを表示する場合：

1. 常設検索ボックスで、ユーザーを検索します ([Almaで検索する](#)を参照)。**[ユーザーの検索と管理]** ページのユーザー

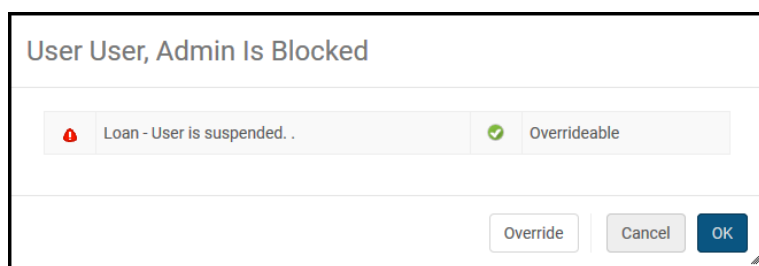
リストにユーザーアカウントが表示されます。ユーザーにブロックが存在する場合は、その行のブロックの下にチェックマークが表示されます。

2. ブロックの詳細を表示するには、ユーザーを選択します。[ユーザー詳細]ページが開きます。
3. ユーザーに有効なブロックの詳細を見るには、ブロックタブを選択してください。



ユーザーブロックの表示

アイテムの貸し出しなど、特定のアクションを実行しようとする時、ブロックの通知も表示されます。



ユーザーブロックのポップアップ

自動的に削除されたユーザーブロック

有効期限を過ぎたユーザーブロックは、ユーザー-ブロックの解除ジョブの実行時に自動的に解除されます。貸出が更新されたり紛失扱いになった場合、延滞および紛失した貸与のプロファイルジョブによって、前回作成された延滞ブロックは、自動的に削除されます。

削除されたユーザーブロックを表示する場合：

1. [ジョブの監視](#)にアクセスします。ユーザー-ブロックの解除ジョブを見つけます。
2. レポート内で、ユーザーの延滞貸与ブロックの削除リンクを選択します。
延滞の貸与によるユーザーのブロックの詳細については、[延滞の貸与によるユーザーのブロック](#)の動画（11分22秒）を参照してください。